

いま「1坪ビジネス」 が面白い

うえだ じゅんこ ●リサーチャー 上田純子



12



13



14

■街で見かけた「1坪ビジネス」20

⑦ SunFace (渋谷区)

電話ボックスよりも狭そうな一戸建てのアクセサリ・ショップ。竹下通りと明治通りの交差点にある。壁一面に、シルバー・プレスレットやウォレット・チェーンなどがぎっしり。

⑧ 食安 (中央区)

JR有楽町駅の高架下にある立ち飲み屋。自動販売機だけが置かれた無人店舗。立って覗いやすい位置に、灰皿代わりの空き缶がセットされている。夕方からは黒山の人だかり。

⑨ スポーツ カード ミント (新宿区)

各種トレーディング・カードやフィギュアを扱うチェーン店の一つ。新宿店は限りなく1坪に近いと思われ、店内では、声を掛け合い、身を寄せないと、お客はずれ違えない。

⑩ スリフトモール (千葉県船橋市)

ららぽーとWESTの3階にあり、100坪のモールに65のショップが並ぶ。1坪の店内では、販売しながらピーズ・アクセサリなどの手づくり教室を開催することも可能。

⑪ ばんかー (武蔵野市)

JR吉祥寺のハモニカ横丁内にあるバー。間口わずか1.8mで、隣の建物とのあいだに隙間がないため、照明、看板、室外機、換気扇のすべてが、正面に取りつけられている。

⑫ ビザ・オリーブ (神奈川県相模大野市)

値段は直径25cmで1,000~1,200円とお手ごろ価格。店舗は改札内にあるため、小田急線にある店舗の場合、入場券を提示すれば、その金額をビザの代金から差し引いてくれる。

⑬ フォトステーション渋谷 (渋谷区)

JR渋谷駅の高架線路の側壁と道路との隙間、1mに建つ。DPE、印鑑、ゴム印、名刺などを扱う。スチールの枠組みに合わせ建てられており、背が高い人は天井に頭がつかえる。

つことさえてできません。一坪ショップなんていう発想は、駅構内でもあり得ないですよ」と語る。ところが、この人も立てない。一坪ショップで営業し、繁盛しているピザ専門店があるのだ。

神奈川県下の小田急線、相模大野駅の中央改札を入り、すぐ左手にある持ち帰りピザ専門店「オリーブ」。間口は一・四m、奥行きが二・六mあるというものの、人が入れるスペースはわずか一mほど。大人二人が入るのがやっとの狭い店内で、なんと「生地づくりから焼き上げまで行ない、つねに焼きたてのピザを提供しています」と、オリーブクリエイティブ社長の三宅雅之氏は語る。

営業時間は午後四時からだが、いちばん売れるのは午後十時すぎから終電までの深夜。客層は若い学生やカップル、女性が多い普通のピザ屋とは異なり、連日、ほろ酔い加減の中高年サラリーマンが行列している。しかも、大手宅配ピザ・チェーンに匹敵する一日約百枚のピザを、たった一坪で売り上げる。坪当たりの月商も、小田急線の駅構内にあるテナントのなかで上位に入るといふ。

同ショップを始める前、三宅氏は横浜市内の住宅街で宅配ピザ屋を営んでいたが、大手チェーンとの競争が激しく、苦戦を強いられていた。そこで、駅改札の真っ正面に場所を移転したところ、売上げが倍増。駅構内への出店を決断した。すると、売上げは三倍増に。現在は相模大野店のほか、小田急・本厚木駅、相模鉄道・さがみ野駅でも展開中。他の電鉄各社からの引き合いも、数多くきている。